

高齢者の事故に思う

野口幹夫

太田様から 11 月の KOZOOM サロン 28 のテーマに「高齢者の家庭内事故」を取り上げて、その現状の調査をしらせていただきました。転倒については最も警戒すべきこととしてその警告をありがたく頂戴しました。

我々は、もういつ何があってもおかしくないという状況にあるということですが、まさにそのようなことを経験しました。

毎朝雨でなければ、6 時には家を出て、途中公園で気功体操などをやり、海岸にでて、浜辺の歌を歌いながら、ラジオ体操の会場に参加します。

数日前のことです。そのルーチン作業を始めて 家を出て歩き出した途端、左の足の甲がはげしく傷み出したのです。歩けない！ 困った。どうする。 足先を振ったら おや治まった、歩き出して数歩、また痛む。

それを繰り返しながらも、何とかその日のルーチンワークは終わりました。帰ってからの家中でも治まらない。外科医院に行こうかと思ったらちょうど その日は祝日休診。

翌朝も同じ状況で海岸へ出かけました。時にびっこを引きながらも海岸にたどり着きました。

そしてもう明日は来られないかもしれないと思うと、日の出を迎えつつある、左右の海岸や、彩られた雲の美しいこと。日頃見慣れた風景なのに、名残惜しくて、何度も頭の中でシャッターを切り その景色を 頭の中の特別の額縁に収めました、やがて江の島から雲の間から

まばゆい閃光がひかり 日の出を迎えました。



理由のわからない突然の足の甲の痛み、整形外科に行ってもレントゲンをとって骨折はありませんといって何もしてくれないよ それより温泉に行って聖体マッサージを受けましようとの妻のすすめで、半信半疑でやりました。奇跡です 整体師はその痛む部分は触らず、せっせと腰や背中をマッサージしてくれただけなのに、足の甲の痛みは消えたのです。

お陰で 次の日はいつものルーチンワークは変化なくこなせましたが、いつもと違っていたのは、海岸の美しい景色です、そのありがたさは、「今日もこれは奇跡でいただけた一期一会の輝き」との感動をもたらせてくれました。

高齢者のいつでも起きる明日をも知れぬ不意の出来事、 高齢者ならではの受け止めができることを知りました。